

令和元年度全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果と今後の取組について【学校版：様式】

1 津山市重点取組

津山市立中正小学校

津山市重点課題	誰が(Who)	何を(What)	いつまでに(When)	どのように(How)	達成される児童・生徒像(数値目標)
学びのサイクル(津山モデル) 授業改善と家庭学習をつなぐ つまずき解消	①担任・祖外・ボランティア・管理職 ②担任・ボランティア ③担任・図書管理員 ④担任	①どんどんチャレンジ ②放課後学習 ③読書カード ④1日の振り返り作文	①②③④今年度中	①木曜6時間目(年間7回)に1学年下の学習内容(計算問題)のプリントから自分のペースで進めていく。 ②放課後の20分間3年は3学期のみ5回、4・5年は年間20回、6年は年間15回(3学期を除く)、担任が2枚分プリントを用意して進める。 ③毎日の家庭学習の課題に読書カードを位置付け、読書に頼む環境づくりを図る。 ④帰りの会で1日の振り返りをし、作文を書く。	①計算力の習熟と定着を図る。学期末テストで8割以上とれることを目指す。②国語・算数の苦手分野の克服。学期末テストで8割以上とれることを目指す。漢字は7割以上とれることを目指す。③活字を眺むことに慣れ、又多様な文章表現に触れることで、文を書く力をつける。④既習の漢字を使い、文章を書くことに慣れる。
生活習慣の改善 スマホ対策と家庭学習の充実(児童会・生徒会や家庭等)	担任	スマホ・メディア・ゲームの使い方について考える。	今年度中	①アンケート調査を行い、児童の実態をつかむ。学年や実態に応じて学活等でスマホ・メディア・ゲームの使い方について考えさせる。その結果、どのように生活習慣の改善がされたかアンケートを行う。取り組みについては保護者にも知らせ、家庭での協力も得る。 ②12月の講演会(上・学年・保護者・教職員参加)で、メディアとの関わり方について講演(KODIの方)を聞き、児童・保護者に啓発する。	睡眠時間8時間の確保。

2 全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果及び成果と課題

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)	
<p>【学力状況調査の結果】</p> <p><全国> ○国語については、県平均と比べると正答率が低い。算数についてはほぼ県平均に等しい。 ○国語において、「文章全体を概観して効果的に読む」ことに関しては、正答率は94.1%(全国88.5%)と高かったが、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域に課題がある。 ○算数では、「目的に適した伴って変わる2つの数量を見つかる問題」は100%の正答率だったが、「数量関係」「数と計算」の領域に課題がある。 ○「かぎ(らず)」を漢字で書く。本校52.9%(全国69.4%) ○1つの文を2文に分けて書く。本校35.3%(全国47.8%) ○何倍にあたるのかを求める。本校58.8%(全国78.6%) ○示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述する。本校17.6%(全国31.1%)<県> ○どの学年も国語・算数共に正答率は県平均を下回っている。国語では、3年は「読み取る力」、4・5年は「言語についての知識・理解・技能」に課題がある。算数では、3年は領域にそれほど差はないが、4年と5年は、特に「量と測定」に課題がある。 ○3年では、計算の復習は100%の正答率だった。国語の「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域では、全国の正答率を大きく上回っていた。4年では、「足し算と引き算」の正答率が全国を上回っていた。5年では、「物語の内容の読み取り」の正答率が、全国を上回っていた。</p>	<p>【学習状況調査の結果】</p> <p>○家庭での学習時間(1時間以上)の割合が82.4%であり、全国平均(66.1%)に比べて高く、全く家庭学習をしない児童はいない。(全国) ○家庭での学習時間(1時間以上)の割合が54.6%であり、県平均(74.2%)に比べて低い。全く家庭学習をしない児童はいない。(県) ○スマホの使用時間(ゲーム等)が2時間以上の児童の割合は、45.5%で県平均(33.3%)に比べて高い。(県) ○自分にはよいところがあると思っている児童の割合は58.8%で、全国平均(81.2%)に比べて低い。(全国) ○自分にはよいところがあると思っている児童の割合は63.7%で、県平均(82.3%)に比べて低い。(県) ○テレビ等の視聴時間は2時間以上の児童の割合は、27.3%で、県平均(47.6%)に比べて低い。(県) ○読書時間が30分以上の児童の割合は、52.8%で、全国平均(39.8%)に比べて高い。(全国)</p>
<p>成果</p> <p>○毎日「読書カード」に取り組む習慣ができてきているので、30分以上読書をしている児童が半数以上いる。 ○「どんどんチャレンジ」や「放課後学習」を継続して行うことで計算の基礎的な力を付けることができた。 ○地域ボランティアを活用しての授業が多い。そのため、地域の行事等によく参加できている。</p>	<p>課題</p> <p>○「1当たりの量」の理解が不十分のため、「何倍」や「何分の1」を問われた問題に答えることができていない。 ○その漢字の持つ意味が理解できていないため、文の中で正しく使うことができていない。 ○1つの文を接続詞を使って2文に分けて書くことや、段落に分けることが難しい。 ○記述式の問題に課題がある。 ○文章をすらすらと読みだす言葉に詰まらず読みだすことに課題があるため、設問の意味を理解することが難しい。 ○ゲームやスマホ、YouTube等に依存している児童が増えてきている。 ○自己肯定感が低い。</p>

3 今後の取組

何を(改善すべきこと)	いつまでに(成果検証の期限)	どこまで(対象と達成目標の設定)	どのように(方策)	達成状況(12月現在)	達成度	達成状況(年度末)	達成度	次年度への改善点・重点課題
基礎基本の定着(つまずき解消)	11月(秋チャレ)	「量と測定」「数と計算」領域で正答率70%以上	・問題データベースの活用(朝学習・放課後学習・どんどんチャレンジ・家庭学習等) ・毎日プリント(家庭学習)					
漢字の読み書きの定着	11月(秋チャレ)	1~3年生:正答率80%以上 4~6年生:正答率70%以上	・問題データベースの活用(朝学習・放課後学習・どんどんチャレンジ・家庭学習等) ・文字を丁寧に書いたり、既習漢字を使ったりすることの徹底 ・漢字検定に向けての取組・漢字ドリルや辞書を活用し、漢字の持つ意味を確認していく・ミニテストでの確認					
家庭学習の定着と充実	2学期末	毎日の家庭学習と自主学習 自主学習について 1年生:3学期から 2・4年生:週1回 5・6年生:毎日	・既習問題やその日の授業の適用問題で理解を図る。 ・問題データベースを活用し、苦手分野の克服もしていく。 ・自主学習で学習の習慣もつけていく。 ・月1度、「自分の自学ベスト」として自学ノートのコピーを廊下に掲示していく。					

※達成度 「S:目標を大きく上回った(100%超)」 「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」 「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」 「C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」 「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」 「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

小中連携の取組	保護者・地域へ理解・協力を求めること
<p>○小中間による授業公開並びに児童生徒の情報交換を行う。 ○時間やルールを守り、規律ある授業づくりを目指す。 ○学習意欲の向上と理解の定着を図るために、岡山型学習のスタンダードに沿った授業を展開し、学び合いを積極的に取り入れる。 ○授業づくりでは、まず、その時間で何を学ばせたいかを明確にし(ゴールの姿を考え)てから、授業の流れを構成していく。 ○県・全国学力学習状況調査の分析を基に、教科科学的な向上を目指した授業改善に取り組む。</p>	<p>○各学年の目安している時間を目標に、集中して家庭学習に取り組むよう家庭に協力を呼びかける。 ○久米中ブロックPTAで取り組んでいるメディアコントロールの取り組みを継続し、テレビやゲーム等の利用のルールについて保護者と子どもで話し合ってもらい、取り組むことができるようにする。 ○学習ボランティアへの積極的な参加を呼びかける。</p>